

# 音楽科学習指導案

指導者 ○○ ○○

- 1 対 象 第5学年○組 計○○名
- 2 日 時 平成○年○月○日（○曜日）第○校時（○：○○～○：○○）
- 3 場 所 音楽室
- 4 指導内容 声の重なり  
〔共通事項〕音楽の縦と横の関係 強弱  
〔指導事項〕声の重なり  
A表現（1）ーウー（ウ）  
各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
- 5 単元・教材名 音楽の縦と横の関係を意識して『ハロー・シャイニング ブルー』を歌おう  
『ハロー・シャイニング ブルー』 鈴木須美子作詞 西澤健治作曲

## 6 単元について

### ①教材観

『ハロー・シャイニング ブルー』は、「自然からのメッセージ（自然の雄大さ）」を表現した曲で、空と海のことをテーマにした曲である。AとBの2部形式になっており、Bから二部合唱になっている。二部合唱の部分は、同じリズムで同時に重なるところとかけ合いで重なるところがある。同じリズムで同時に重なるところは、空と海の壮大さを感じられ、かけ合うところでは波や風がゆれているように感じるなど、さまざまなイメージを広げることができる。音の響きを味わいながら、曲想に応じた盛り上げ方を工夫し、主旋律と副次的旋律の強さのバランスも工夫できる。また、途中から二部で重なることで、音の重なりや音楽の縦の関係だけでなく、音楽が進むにつれてイメージが変わっていくという音楽の横の関係から自然の壮大さを感じることができる。作曲者は、強弱記号を明記しておらず、児童は自分の感じたことから表現したいように自由に強弱をつけることができる。よって、表現の工夫では、自分たちのイメージに合うよう強弱を意識して取り組めるようにする。

### ②児童観

本学級の子どもたちは、音楽に対しての興味関心が高く、積極的に歌唱や器楽演奏に取り組むことができる。音楽の授業では、自分が気づいたこと感じたことを、自分の言葉で表現することを大切にしているが、交流の場面で、特定の児童だけ意見を言うのではなく、ほとんどの児童が手を挙げて自分の意見を発言しようする意欲をみせている。また、友だちの意見を聞いてさらにそこから自分の意見につなげることもできる。

『こいのぼり』の学習では、旋律の動きの学習をした。「1段目の最後の音は下がっているが、2段目の最後の音が上がっていくので、空にのぼっていく感じがする」「出だしは が多くて、音があがっていくので、こいのぼりが空で楽しく気持ちよく泳いでいる感じがする」「3段目の出だしが他の段とは違い同じ音が続くので、こいのぼりがなめらかに泳いでいる感じがする」など旋律の特徴とそこから感じたことをたくさん挙げることもできた。そして、どのように歌うと旋律の特徴を生かされるのかを考えるとときには、主に強弱に視点をおき歌唱表現へとつなげることができた。

『茶色の小びん』では、主旋律と低音の音の重なるの学習をした。これまで、ソプラノリコーダーの2つの旋律を重ねる学習は行ってきたが、低音を取り上げる初めての学習であった。主旋律をリコーダー、低音をバスマスターやオルガンを使って演奏した。リコーダーだけよりも、低音が入るとかっこよくなり、楽しさが増してリズムにのって演奏できるということに気づき、音を重ねることでの音楽のよさを感じとっていた。

『カレリアより～行進曲風に～』の鑑賞の学習では、主旋律がさまざまな楽器で演奏されるよさを聴きとった。主旋律に注目して聴く活動をおこなったが、主旋律の音色を引き立てている楽器の音色に気づくこともできており、「打楽器がドーンというリズムをうつことで力強さがましていた」などの意見を書いていた。

以上のように、これまで旋律や音の重なりについて学習を積み重ねてきた。本単元では、旋律と音の重なりを音楽の流れの中で感じ、歌唱表現へとつなげていきたい。

### ③指導観

第1時では、曲のイメージを膨らませ、2つの旋律を歌えるようにすることを目標とした。まず空と海のイメージをふくらませるために、空と海の写真をみせながら、空と海から連想する言葉を自由にたくさん挙げていく活動を行った。空や海の青さや大きさ、海の波、それぞれにいる生き物、海で遊んだり、空に飛行機が飛んだりすることなどを出し合いグループでイメージを膨らませていた。そして、作詞者の鈴木須美子さんからのメッセージを読み、歌詞を読んだ。作詞者のメッセージを受け止め、これからの活動でも歌詞を大切に歌えるようにしていきたい。そのあと、範唱を聴いて、感じたことや気付いたことについて意見を出した。「高い音が目立ってひびいている」「のびている」「ハローシャイニングブルーから2つの音が聴こえる」「やさしくてゆったりする感じ」など、旋律の特徴や曲の雰囲気について気付いていたことを発表していた。次に、それぞれの旋律を歌った。パート分けをすぐにするのではなく、2つの旋律がどのような旋律かを知るためにも、全員がどちらのパートも歌えるようにしていった。2つの旋律を経験した後に、パート分けをし、2つの旋律を重ねて歌っていく活動を行った。その時に、2つの旋律のバランスが大切であることにも気付くことができ、友だちの歌声を聴きながら、自分のパートを歌う様子も見られた。

本時では、音楽の縦と横の関係について知覚・感受を行う。主旋律のみと副次的旋律を重ねたものを聴き比べ、音が途中から重なっていくことで、自然の大きさや躍動感が表現できることに気付くようにする。また、音が同じリズムで重なっていくときと、かけあいになっているときで、感じることも変わってくる。拡大楽譜を掲示し、どのように重なっているのかを全員で確認していきながら、どんな感じがするのかを交流したあとに、どのように歌えばよいのかを考えていく。かけあいのところで、2つの旋律がどのようにきこえると波がゆれているように感じられるか、空や海の広さを表すためにどのような強弱で歌えばよいのかなど、クラス全体で意見を出し合っ、表現のポイントを押さえていく。そのあとグループに分かれて、どのように歌えばよいのか、強弱を中心に話し合い、グループで表現を工夫していく。

第3時は、グループで表現を完成し、お互いの歌を聴きあう。それぞれのグループが工夫していたことや、そこから感じ取ったことを交流するようになる。最後は、アセスメントシートを用い、音楽の縦と横の関係について理解しているか確認する。

## 7 単元目標

○声の重なりに関心を持ち、意欲的に『ハロー・シャイニングブルー』を歌う。

(音楽への関心・意欲・態度)

○『ハロー・シャイニングブルー』の声の重なりについて知覚し、それが生み出す特質を感受して、歌唱表現を工夫する。

(音楽表現の創意工夫)

○声の重なりを意識して『ハロー・シャイニングブルー』を歌う。

(音楽表現の技能)

## 8 単元の評価規準

評価の観点	単元の評価規準	具体的評価規準
観点1 音楽への 関心・意欲・態度	声の重なりに関心をもち、『ハロー・シャイニングブルー』を意欲的に歌っている。	① 2つの旋律を合わせて『ハロー・シャイニングブルー』を意欲的に歌おうとしている。 ② 声の重なりについて感じたことを積極的に発言したり、意欲的に歌ったりしようとしている。
観点2 音楽表現の 創意工夫	声の重なりを知覚・感受して、『ハロー・シャイニングブルー』の歌い方を工夫している。	① 声の重なりを知覚し、感受したことについて発言している。 ② 声の重なりから生み出されるイメージから表現を工夫し、どのように歌うのかについて自分の考えをもっている。
観点3 音楽表現の技能	声の重なりを意識して『ハロー・シャイニングブルー』を歌っている	① 声の重なりから生み出されるイメージに合った表現で歌っている。

## 9 単元指導計画（全3時間）

### 第1時

- ・『ハロー・シャイニングブルー』を2部合唱する。【経験】

### 第2時（本時）

- ・1つだけの旋律と、2つの旋律を重ねたものを聴き比べ、2つの旋律を重ねるとどうなるのか交流する。【分析】
- ・声の重なりを意識して『ハロー・シャイニングブルー』をグループで工夫して歌う。【再経験】

### 第3時

- ・グループで聴き合い、どのような工夫をしているのか伝え合う。【再経験】
- ・声の重なりについてのアセスメントシートに答える。【評価】

## 10 本時の学習

### ①本時の目標

『ハロー・シャイニングブルー』の声の重なりを知覚・感受し、歌い方の工夫を考える。

### ②本時の展開（2／3時間）

区分	学習活動と内容 (○教師の発問 ・予想される児童の反応)	指導上の留意点・支援と評価 (・留意点◇教師の支援 ■評価の観点と方法)	準備物・ 資料等
導入	1. 2つのパートに分かれて『ハロー・シャイニングブルー』を歌う。	・グループではなく、全体で歌うようにする。 ◇前列に副次的旋律、後列に主旋律の児童を座らせて、歌いやすいようにする。	

<p>展開</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">       音楽の縦と横の関係を意識して、工夫して歌おう     </div> <p>2. 声の重なりを知覚・感受する</p> <p>○2つの『ハロー・シャイニングブルー』を聴き比べて、気づいたことや感じたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・途中から下の旋律が重なってくる</li> <li>・上の旋律だけだったら、静かな感じだけど、2つの旋律が重なるとにぎやかになる</li> <li>・旋律が重なるところからサビになるので、空がひろがっていく感じがする</li> <li>・かけ合っているところが、風が吹いている感じがする</li> </ul> <p>3. 声の重なりを意識して歌うには、どのように歌うとよいか考える。</p> <p>○声の重なりが伝わるにはどのように歌うとよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの重なるところから、盛り上がる感じで強く歌うといい</li> <li>・かけ合いのところは、どちらの旋律もしっかりと聴こえるように歌うと風が吹いている感じになる</li> <li>・初めのところは、あまり強弱をつけないほうが、重なるところからが目立つ</li> </ul>	拡大楽譜
-----------	--	------

- ・①は主旋律のみ、②は主旋律と副次的旋律の重なったものを聴き比べ、「声の重なり」に気づくことができるようにする。
- ・伴奏はピアノで同じように演奏しているものを用いる。

◇拡大楽譜を掲示し、どのように重なっているのかを確認できるようにする。

◇声の重なりの変化に気づいていない児童については、具体的に「ここからはどんな風が変わっていくかな」と聞いていくようにする。

- ・児童の意見を全体に返して確認し、その都度歌いながら全員で共有していけるようにする。

■声の重なりを知覚・感受できたか。  
 (ワークシート・発言)【音楽表現の創意工夫】

- ・音の重なりだけでなく、この曲は音楽の中にも変化があることを確認し、「音楽の縦と横の関係」という言葉と意味を押さえる。

- ・子どもの意見を全体で共有するために、意見が出た部分をその都度歌って確かめて、歌い方の工夫の手がかりを得られるようにする。

まとめ	<p>4. グループで声の重なりの特質が表せるように、歌い方を工夫して歌う。 ○声の重なりが伝わるように、グループで歌い方を工夫しましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの旋律が重なるところは、上の旋律の方が少し強めに歌うほうがいいんじゃないかな。</li> <li>・2つの旋律がはっきりしないと、聴いていてよくないね。音の上がり下がりをもっと意識しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5～6人構成のグループにする</li> <li>・グループに1枚楽譜を渡し、どのような工夫ができるのか、メモをしながら話し合うようにする。</li> <li>・自分たちの表現を確認できるようにするために、グループ1台ICレコーダーを渡して、録音して聴けるようにする。</li> </ul> <p>◇どのようにすればよいかわかっていないときは、さきほどの全体の意見交流のときに出た表現をやってみて、そこから考えていけるようにする。</p> <p>■声の重なりから生み出されるイメージから表現を工夫し、どのように歌うのかについて自分の考えをもつことができたか。(発言の様子)【音楽表現の創意工夫】</p>	グループ用の楽譜
-----	---	--	----------

### ③本時の評価の観点と方法

『ハロー・シャイニング ブルー』の声の重なりを知覚・感受し、歌い方の工夫を考えたか。  
(音楽表現の創意工夫/ワークシート・発言の様子)

### 板書計画

『ハロー・シャイニング ブルー』を工夫して歌おう

拡大楽譜

**①の歌** 上の旋律のみ

空がきれいなイメージ  
しずかな感じ  
さみしい感じもする

**②の歌** 途中から下の旋律が重なる

ハロー～のところから、空がさらに広がるよう  
かけあっているところが、風がふいている  
1つの旋律だけよりも、強く聴こえる

音楽の縦と横の関係